Ubuntu Magazine Japan ウブントゥ マガジン ジャパン

ご利用になる前に必ずお読みください

このＰＤＦファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。

この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/をチェックするか、クリエイティブ･コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：
●文/アスキー書籍編集部
●デザイン/シオズミタロウ
●初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.04」（http://ubuntu.asciimw.jp/）2010 年 5 月 31 日発行

うぶんちゅ友達の輪

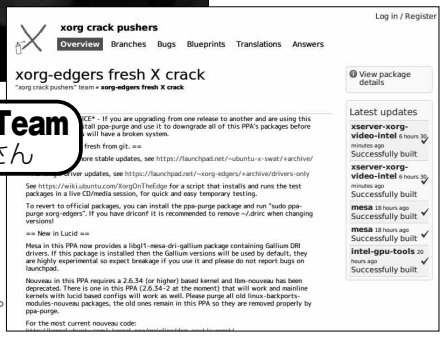
Ubuntuのことならなんでも!!

Friends of Circle

世界と日本に広げよう
うぶんちゅ友達の輪!

スイスから出張でやってきたUbuntuユーザと話してきた!

Ubuntu Swiss Team
Tormod Voldenさん



🏠スイスはルツェルンにお住まいで、本業はマイクロポンプの研究エンジニア。出張では何回か東京に来ているそう。ご出身はノルウェイだそうだ。

公用語は4つ。言語的には接点がないスイスチームはどうしてるの?

発端は3月に行われたオープンソースの祭典、「OSC Tokyo」に現れた、スイスからのお客様、Tormod Voldenさん。勢いでインタビューを申し込んでみたところ、快諾してくれた。Ubuntuスイスチームの活動内容や個人の開発活動など、いろいろ聞いてみたぞ!

——なんでもOSC Tokyoの会場にわざわざ足を運んでくださったそうで。

そうですね。出張の日程と合っていたので、せっかくですから覗いてみようと思って。都心というよりは、意外と遠いところでしたど(笑)。

——Ubuntuのスイスチームについて、いろいろ教えてください。活動はいつから?

2006年です。確か。

——スイスって、公用語がたくさんありますよね。

はい。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語があります。

——そうすると、スイスチーム内での意志の疎通ってどうしているんですか?

メーリングリストでは、英語を使うことに決めました。言い方は適当ではないかもしれないですが「みんながハンディキャップを負う」という考え方です。このメーリングリストでは、支配的な言語はありませんよ、みな等しく母国語ではない英語を使いましょうということに決めたわけです。

——ちょっと不思議ですけど、みなさん、英語が使えるんですね。

そうですね、だいたいの人ができると思います。それに、情報リソースということなら、フランス語話者ならubuntu.fr、イタリア語ならubuntu.itというように、ほかで情報を得られますから。

——ではチームの活動としては、どんな活動をしているんですか?

僕らはランゲージチームではないんです。日本のように日本語に対応させるためのローカライズ作業はないので。つまり、地域でのコミュニケーションや活動のために存在するチームなのが特徴です。なので、スイスでのローカルイベントを開催します。

——リリースパーティとか。

そうですね。初心者がUbuntuをインストールするのをサポートするインストール・パーティと、いわゆる一般的なユーザに向けた講演があるイベント、そしてリリースを祝うリリースパーティを開催しています。

——どんな雰囲気ですか?

だいたい15時くらいから始めて、深夜まで。初心者向けのインストールのワークショップや、発表のあとに懇親会というスタイルです。

——それは日本のオフラインミーティングとほとんど同じスタイルですね。えーと、パーティでも4つの地域から来た人たちで会話するとなると英語?

そうです。近くの人にトラブルを助けてもらいたいとか、近所でUbuntuのパーティをするとか、そういうときは自然と母国語になると思います。

——たとえば?

チームのWikiページには、郵便番号ごとにソートされたメンバーのリストがあります。これはUbuntuについて困ってることがある人がいれば、郵便番号から近くに住んでいるメンバーを割り出して連絡できる、というシステムです。メンバーによって内容は違いますが、インストールCDがもらえたり、サポートが受けられたりします。メンバーが使える言語も明記されてます。

——Voldenさんご自身のことを伺いますが、いつぐらいからUbuntuを使い始めましたか? ご自身でも開発に参加されてるということですが。

以前からLinuxは使っていたのですが、のめり込み始めたのは2004年くらいからですね。Ubuntuも使ったらすぐに気に入りました。これはすごいな、と。でもすぐに問題も見えてきて。

——というと?

グラフィックです。ユーザと開発者の間にギャップがあるという

X.orgの開発者と一般ユーザをつなぐことができればいいな、と思って

ことに気付きました。開発者がパッケージ化してからおよそ1年後くらいに一般のユーザがそのグラフィックを使うことになるイメージです。だいたい開発者はユーザの1年先を行ってしまっていて、ユーザがバグを問題にするころには「過去のことだから」という対応になってしまっていました。

――なるほど。テストするユーザが少ないことが開発者とユーザのギャップにつながっていた、と。

そうです。X.orgからgitを引っぱってきて、ソースから自分でドライバをコンパイルするのはハードルが高いけれども、それをdebパッケージ化して配布してあげればインストールする人の数が増える、と思いました。

――それがxorg-edgersのPPAのきっかけだったわけですね。

X.orgの開発者と一般ユーザの距離を近づけられればいいな、というアイデアがスタートですね。もちろんxorg-edgersの対象は一般のユーザというよりは、ある程度のトラブルもいとわない、アドバンスユーザ向けを想定しているのは確かなんですけどね（笑）。

――というと？

当然、開発版なわけでPPAをソフトウェアソースに登録するとアップデートでXが不具合を起こす可能性もないわけではないので。debパッケージ単体でインストールして試してもらうのがいいと思います。

――なるほど。たしかにアドバンスユーザ向けかもしれませんね。

でも、これでX.orgにはテストユーザの提供ができて、ユーザにはフレッシュなドライバに触れてもらう機会を作れたかなと思っています。

――最後に。スイスでのUbuntuの普及度ってどうですか？

あんまり日本と変わらないと思いますが、UbuntuのTシャツを着てた友人が、洋服屋の店員に「私もノートPCにUbuntu入れたわよ」と話しかけられたらしいです。こうやって、だんだん普及するんじゃないかと思います、きっと。

好漢・うぶんつ侍 宇文津之介（うぶんつのすけ）

桝田道也

10.04はLTSでござる の巻

そんな間違いでいちいち斬られてたら弊誌編集はどうなる、津之介！

うぶんちゅ Topics

1 Anime Bostonに『うぶんちゅ！』が登場！

アメリカのボストンで4月2日から4日まで開催された日本アニメ・マンガのイベント『Anime Boston』にマサチューセッツLoCoチームが参加。『うぶんちゅ！』の小冊子とインストールCDを配布して参加者にUbuntuの名前を知らしめたとのこと。ブースにはFirefoxやセーラービーナスも来訪したとか。そのアクティブな活動ぶりは敬服モノ。日本の有明まんが祭りにもぜひUbuntuブースを!?

From DoctorMO's Blog by Martin Owens (photo by Danny Piccirillo)

2 箕面市の名物はかなり美味だった！

今号記事のゆるキャラ（？）つながりで紹介するわけではないですが、箕面市の名物、結構おいしいかったのでご報告。箕面の柚子のPRキャラクター、たきのみちゆずるがラベルに入った柚子ぽん酢もおいしかったですが、名物「もみじの天ぷら」が意外なおいしさ。もみじに小麦粉を溶いたものをつけて揚げた油菓子。もみじの風味はほとんどしませんが、形と素朴な風味が懐かしさをそそります。

■箕面名物、もみじの天ぷら。秋だけじゃなくて年中食べられます。